

大原幽学門人の墓について

米谷博

The Graves of OHARA Yugaku Disciples

はじめに

- ① 大原幽学研究と性学墓
- ② 各地に残る性学墓
- ③ 長部村の墓地

おわりに

[語文叢書]

江戸時代末期の下総地方における大原幽学の農村指導は、農業技術や日常生活にとどまるものではなく村の伝統的習俗にまで及んでいる。しかし、内容によっては古くからの習慣と対立するものもあり、門人たちの活動はそうしたさまざまな問題を乗り越えて実践されたものだった。こうした習俗改变の形跡は門人たちの墓制にも見ることができる。性学関係者の墓地は各地に設立された教導施設に付随して形成されたが、そこでは在地の墓制とは異なる彼等独自の墓制が行われ、現在まで続いている場所もある。しかし明治期後半以降の性学活動の沈滞化にともなって、各地に残るそれらの墓地も開設当時の意味は薄らぎ、現代的な墓地へと大きく変更されつつあるのが現状である。本稿はこうした性学門人の特徴ある墓制を性学墓として捉え、現状および聞き取り情報も含めて関連する資料をできるだけ紹介することを第一の目的とした。併せてこれまで研究対象とされてこなかった性学墓を、幽学研究の舞台へはじめて登場

させようとするものである。

今回紹介した性学墓の事例は、下総地方だけではなく近江や箱根にまで及んでいるが、こうした広がりは性学門人の活動範囲が明治初期に広まつたことと対応しており、そういう意味では関係地域にまだ確認されていない墓地が存在している可能性もある。しかし今回確認し得た十件の事例を見ただけでも、性学墓の特徴として頂上を尖らせた墓石、材質は安山岩製、男女別墓域の使用、墓域の土壌開み、被葬者一人で一基の墓石を建てる、などといった点を見出すことができた。また、近江地方の性学墓では遠隔地でさえも下総と同様の墓制を貫き、あくまでも性学墓にこだわらうとした性学教団の強いこだわりを見ることができた。こうした性学墓の基盤は幽学の時代に始まりを確認できるものの、厳格なまでに規律化されたのは、性学活動が精神修行的側面を強めた二代目、三代目の教主の時代のことだった。